

じゅくしやう

十一月十一日から十六日まで、本願寺津村別院（北御堂）で報恩講法要がお勤まりになっておりました。以前は電車やタクシーを乗り合わせ、当山より団体参拝をしておりましたが、コロナ禍以降は法要のご案内をして各自ご参拝いただくこととしております。住職も奏楽員として毎年出仕をしております。

計六日間勤まつている中で昨年から十三日は特別な法要となっております。浄土真宗の宗門校の中に相愛大学があります。その現役生のサククスアンサンブルと、OGさんによるコーラスが加わった音楽法要で、宗祖讃仰作法をお勤めしました。下の写真にもあります。

北御堂 報恩講法要

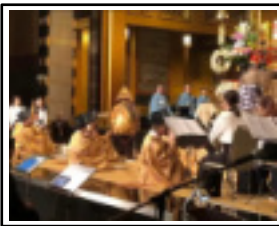
すが、僧侶の声と私たちの雅楽演奏、そしてサククスやコーラスの響きが融合し、深い感動を肌で感じる事ができました。

さらには十五日の午後と十六日の午前の法要には前門様のご参拝をくださいました。足を悪くされておられ、普段は車椅子での生活とのことですが、それでも、杖をつかれながらお焼香いただき、またご法話（お言葉）をいただきました。未だに戦争が行われている世界情勢を伺いながら、私たちの生きる姿である五濁を見つめ、だからこそ阿弥陀さまの救いのはたらきが私に至り届いており、そのままいただき、

第68号
(通算408号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

き、任せていくことが大切であるとお話しくださったことです。五濁とは、悪世（今の世に）において避けがたい五つの汚れのことです。劫濁（時代の汚れ）、見濁（邪悪な見解や思想の汚れ）、煩惱濁（悪徳の栄え）、衆生濁（人間の資質の低下）、そして命濁（短命）のこと。混迷する社会で、濁った生き方しかできない私の為に阿弥陀さまははたらかれておられます。前門様は初めに、足が悪くなり、本願寺で決められた法式規範（お作法）が守れなくなりました。申し訳ありませんと謝られました。けれど、できないからと言って出なくなるのではなく、そのままの姿の中に阿弥陀さまの救いがあることを示してくださった気がします。



浄覚寺ヨガ教室

- ・12月18日(水)
10時~11時半
- ・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

- ・12月25日(火)
19時~20時半
- ・参加費1000円

五濁悪世のわれらこそ

金剛の信心ばかりにて

ながく生死をすてはて

自然の浄土にいたるなれ

親鸞聖人「高僧和讃」



御文章に聞く(第61回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていきたいと思います。先月までは「一切の聖教章」の前半を読ませていただいておりました。浄

一切の聖教章(五帖第九通) これによりて・南無とたのむ衆生を・阿弥陀仏のたすけまします道理なるがゆえに、南無阿弥陀仏の六字のすがたは・すなわちわれら一切衆生の平等にたすかりつる・すがたなりとしらるるなり、されば、他力の信心をうるといふも・これしかしながら・南無阿弥陀仏の六字のころなり、このゆえに・一切の聖教といふも、ただ、南無阿弥陀仏の六字を信ぜしめんがためなりと・いうころなりと、おもふべきものなり、あなかしこ あなかしこ

土真宗のご信心は「雑行を捨てる」、つまり自力をたのむことを捨て、本願他力におまかせをすることでありました。今からは後半に進みたいと思います。まずは大意をお伝えします。「このように南無とおまかせする者を、阿弥陀仏は必ずおたすけくださる」といふ道理をあらわしていますから、南無阿弥陀仏とは、私たちが阿弥陀仏の仰せに順う、他力の信心一つで、あらゆる人が平等にたすけていただける道理をあらわしていると知らされます。ですから、他力の信心といっても、南無阿弥陀仏のおころを知らせていただくよりほかにはないのです。このようないわれでありますから、仏法をすすめてくださる「お聖教」は、すべて南無阿弥陀仏の六字を信じさせるためのものであったと心得るべきであります。」

仏教語辞典



織田信長

比叡山の焼き討ちや、一向宗との戦争、自身は本能寺で謀反にあつて命を落とすなど、何かとお寺に縁がある武将。

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。今年の暑さは本当に長かったです。十二月の声を聞くとうやく朝晩が寒くなりました。けれど、そうなる私は寒暖差アレルギーによつて鼻と喉が辛くなります。皆さまも風邪など引かれませんかようにお大事ください。最近の季節は春や秋といった心地の良い時間が少なくなってきました。暑いか寒かといった両極端になつてきています。季節感とは人の感情に影響を与えらると思ふのです。あまりに極端になれば、黒か白か、LやSかMか、はたまたMかLかといった偏つた考え方になるかもしれません。LやSというグレーな色を上手く使い分けながら、人間関係を培ってきた日本の感性は変わってしまうのでしょうか。(釋法蓮)



1月

・令和七年一月一日(祝)十四時より元旦会 法話 新發田恵司 先生
・令和七年一月十二日(日)十四時より 浄覚寺仏教婦人会 総会(会員のみ)

行事案内

日時・十二月二十二日(日) 午前十時〜午後四時 行事・浄覚寺ごとも会冬のことい 場所・長原浄覚寺 詳細は別紙にて (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

